

事務局からの統合校提案

第 5 回玉川地区学校適正配置地元代表協議会

教育環境としての統合校①

統合の是非

保護者アンケート		
鴨部	九和	合計
31人/46人	35人/43人	66人/89人
67%	83%	74%

主な目的) 複式学級の解消

児童の教育環境として望ましくない

教員の負担軽減（授業準備等）

学校運営上の対応力低下（配置教員数による余裕度のなさ）

一定数の教員数を配置し、望ましい教育環境を提供する



一人一人に目が届く教育環境

時代による新たな課題に対応できる体制

統合により実現する（基本方針）

教育環境としての統合校②

議論の内容

魅力化・特色化

玉川地区での学校存続

- 小規模特認校制度
(流入を呼び込む)



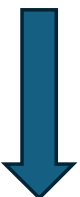
統合校ならではの魅力・特色により
児童・生徒を呼び込む

- 木育
- ICT教育（プログラミング等）
- 金融学習
- 起業家精神の育成
- ドローンを使った防災教育
- 小中一貫教育

場所

小学校同士の統合

- 九和小学校校舎
(鴨部小学校校舎では小さい)



より鴨部地区
に近い場所

- 玉川中学校校舎
(小中一貫校)



保護者アンケート

	鴨部	九和	合計
一貫校	32/46 37/46 70% 80%	12/43 21/43 28% 49%	44/89 58/89 49% 65%
九和小	04/46 09/46 9% 20%	21/43 30/43 49% 70%	25/89 39/89 28% 44%

※赤字は「どちらでもよい」を含めた数字・割合

小中一貫の是非

小学校同士の統合よりも効果的か

- 中学校進学時での児童流出という
課題解決につながらない

保護者アンケート（小中一貫校を進めてほしい）

鴨部	九和	合計
29人/46人 63%	15人/43人 36%	44人/89人 49%



課題解決につながると思われるが、
初めてのことで分からない（不安）

保護者アンケート（分からない）

鴨部	九和	合計
14人/46人 30%	16人/43人 37%	30人/89人 34%

教育環境としての統合校③

不安の解消

保護者アンケートから見える不安

小中一貫校についてどう思いますか？ 鴨部：14人(30%) 九和：16人(37%) 計：30人(34%)

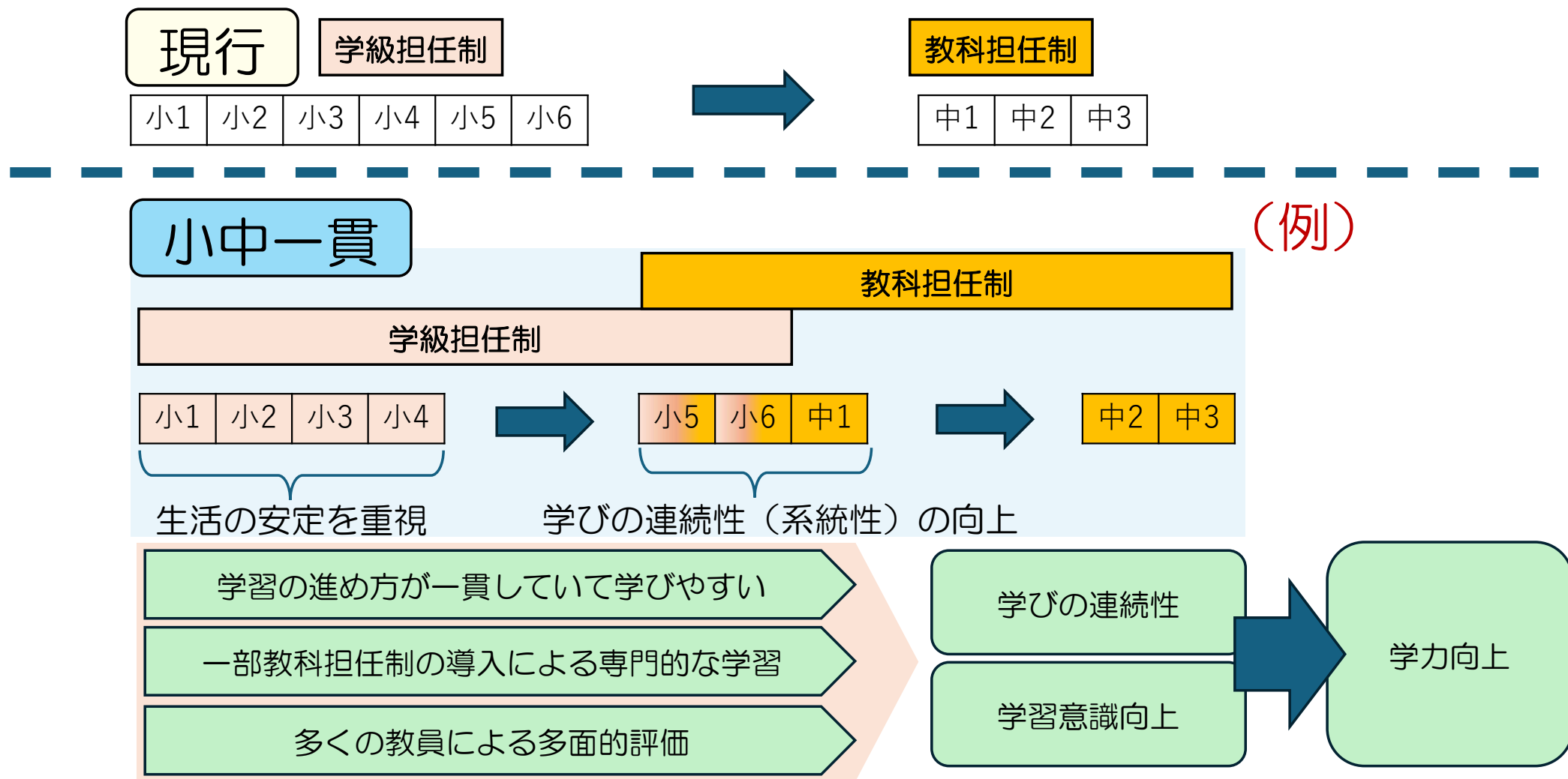
小中一貫校について議論を経て

●魅力化・特色化

●小中一貫校の是非
(不安や心配)
(期待や要望)

効果が見込めない場合は、九和小学校校舎での小学校統合

小中一貫教育のイメージ図



玉川で目指す学校のあり方

小中一貫教育

小中連携教育のうち、
小・中学校段階の教職員同士が、目指す子ども像を共有するとともに、
9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な指導を目指す教育

義務教育学校

9年間の系統性を
確保した教育課程を
編成・実施する学校

独自のカリキュラムに発展する
ため、児童生徒の流入を呼ぶに
はハードルが高くなる。
(他校とのカリキュラム差が大きい)

小中一貫型小・中学校

組織上独立した小学校及び中学校が
一貫した教育を施す形態で、
それぞれに校長、教職員組織を有する学校

併設型小学校・中学校

同一の設置者

一貫教育にふさわしい運営体制の整備が要件

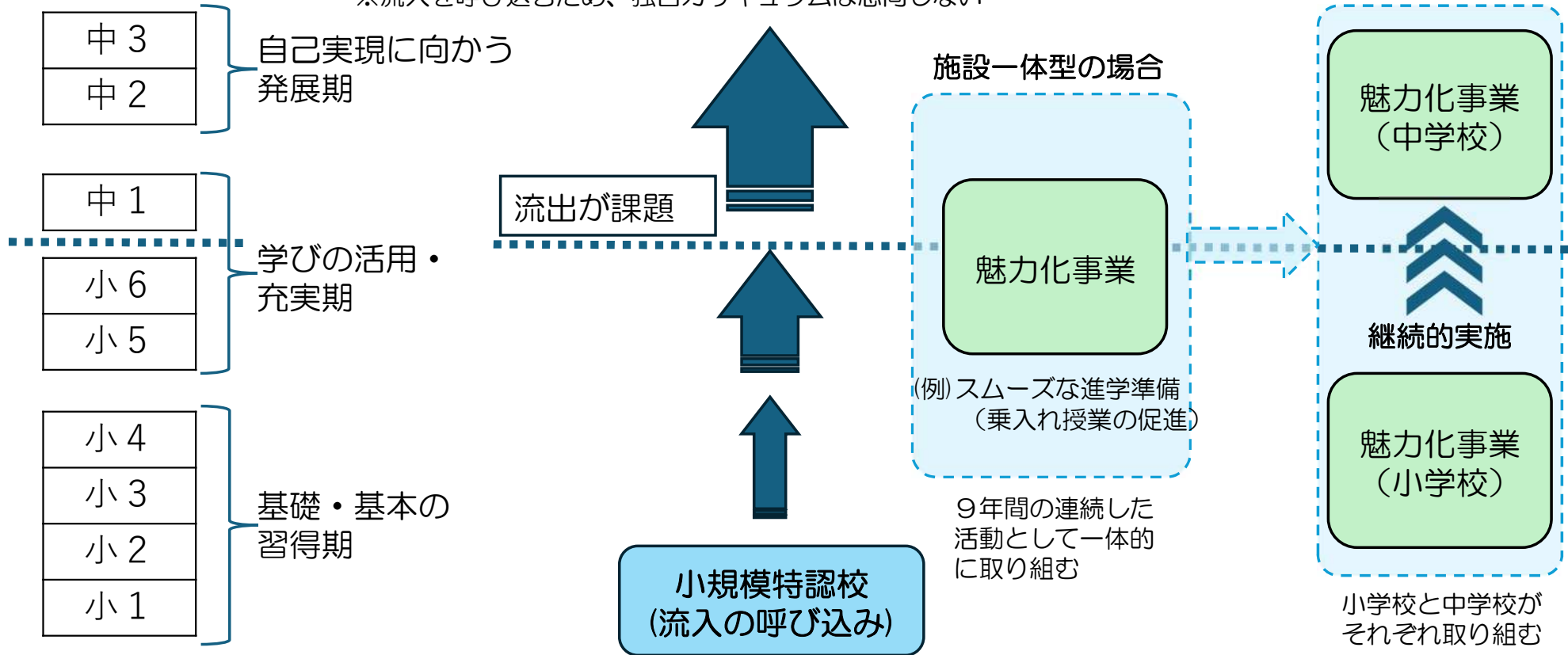
- ・ 学校運営協議会の一体化
- ・ 行事の共同化

玉川で目指す学校のあり方②

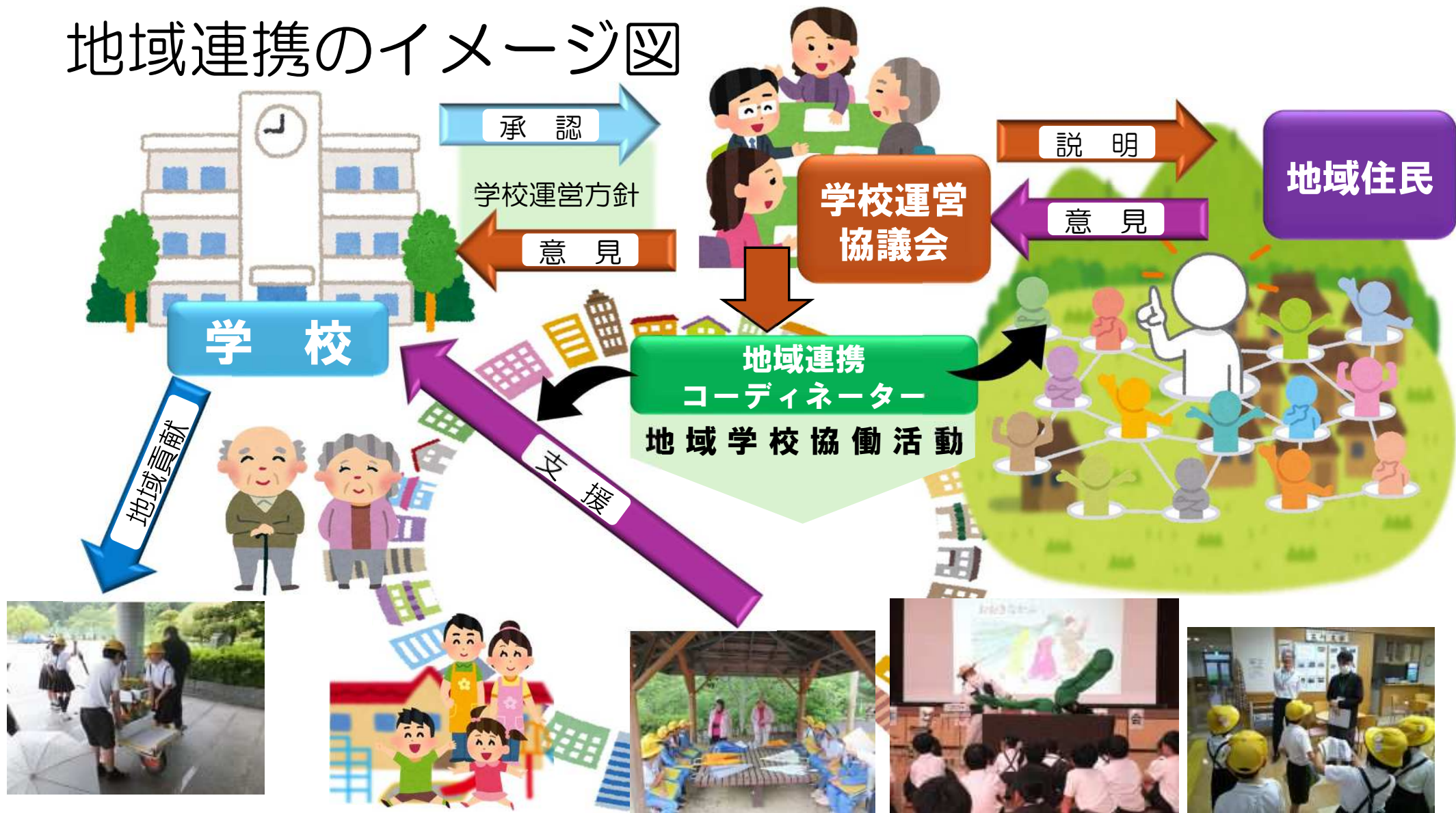
小中一貫教育

小中連携教育のうち、小・中学校段階の教職員同士が、目指す子ども像を共有するとともに、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な指導を目指す教育（6・3制を基本として、義務教育9年間の連続した教育課程編制）

※流入を呼び込むため、独自カリキュラムは志向しない



地域連携のイメージ図



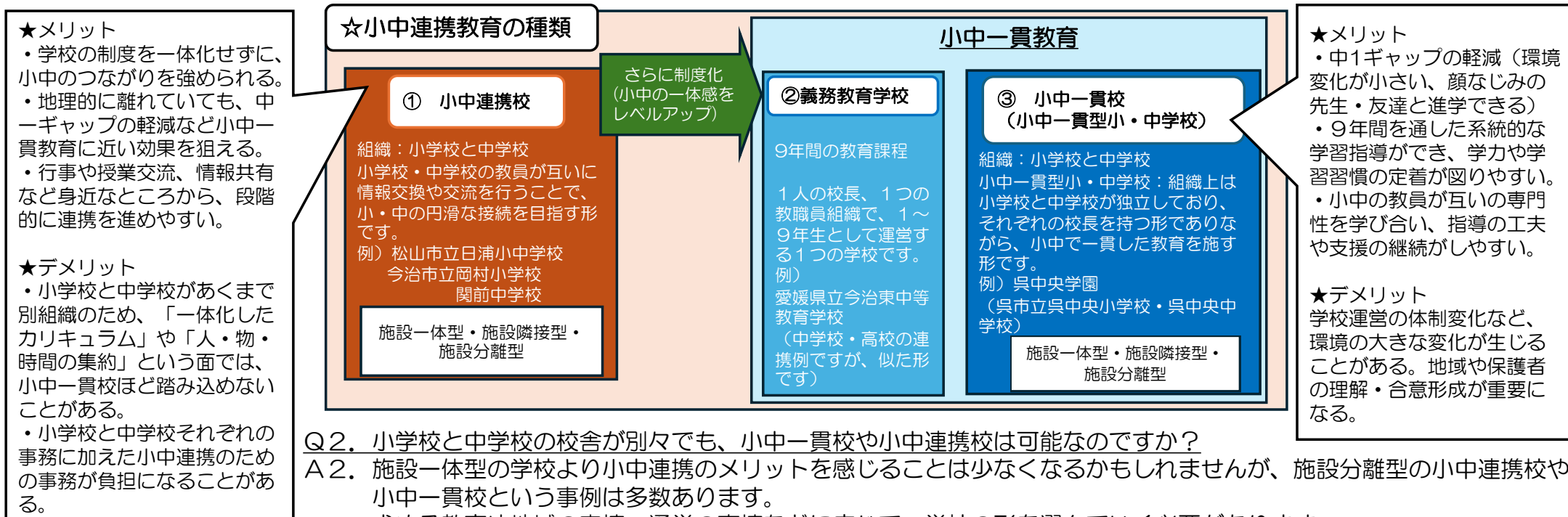
小中一貫校（校舎一体型）についてのQ&A

●学校の仕組み・制度の違い

Q 1. 小学校と中学校の校舎を同じにすると「小中一貫校」になるのではないのですか？

A 1. 「小学校と中学校が同じ校舎にあること＝(イコール) 小中一貫校」とは限りません。

小学校と中学校が連携する教育には種類があり、学校の形によって次のように分類されています。



Q 2. 小学校と中学校の校舎が別々でも、小中一貫校や小中連携校は可能なのですか？

A 2. 施設一体型の学校より小中連携のメリットを感じることは少なくなるかもしれませんが、施設分離型の小中連携校や小中一貫校という事例は多数あります。

求める教育や地域の実情、通学の事情などに応じて、学校の形を選んでいく必要があります。

もし「九和小学校」の施設に小学校を統合したら・・・

1. 「施設分離型」小中連携校 または 2. 「施設分離型」小中一貫校 という形が考えられます。

もし「玉川中学校」の施設に小学校を統合したら・・・

1. 「施設一体型」小中連携校 または 2. 「施設一体型」小中一貫校 という形が考えられます。

●小中連携校と小中一貫校のちがい

Q3. 小中連携校と小中一貫校はどう違うのですか？

A3. 一番の違いは次の2点です。①学校組織として一体かどうか

②9年間の教育課程（カリキュラム）をどこまで一本化しているか

一般に「小中連携校」と呼ぶ場合は、制度化された「小中一貫校」ほどではなく、交流や行事などに重点を置いた連携を指すことが多いです。

- ・小中連携校：小学校と中学校が組織運営上は分かれています。授業交流や行事、教員同士の打合せなどを通して、小中のつながりを強める取り組みを行います。
- ・小中一貫校：小学校と中学校が一体となった運営をし、目指す子ども像や教育目標を共通にし、9年間を通した教育課程を組んで一貫して指導します。

Q4. 子どもにとって「中1ギャップ（学習や人間関係の急な変化）」への効果は違いますか。

A4. どちらも「中1ギャップ」を減らすことを目指した取り組みです。

一般的に、小中一貫校の方が、9年間を見通したカリキュラムや指導体制を取りやすいと言われています。

小学校の段階から中学校の先生とも情報共有しながら支援が続けられるため、苦手教科や生活面での課題を中学校以降も継続してフォローしやすいと言われています。

小中連携校でも、行事や授業交流、児童生徒の情報交換や引継ぎを通じて、中学校生活への不安を和らげる効果が期待されています。

例）小中一貫校では、教育課程を「小1～小4」「小5～中1」「中2～中3」のように学校区分にとらわれず、9年間を見通した形で組むことができます。
小中連携校では、基本的には「小1～小6」「中1～中3」と学校ごとに教育課程を組みますが、学習内容の重なりを減らす工夫や、同じ単元を小中でつなげて指導するなどの取組が行われます。

Q5. 学校行事や部活動はどうなりますか。

A5. どちらの場合も、運動会や音楽会、地域行事、部活動体験などを小中で合同実施したり、互いに参加したりする取組が行われます。

小中一貫校では、9年間を通して位置付けた行事予定を立てやすく、例えば1～9年生が関わる「縦の交流行事」のようなものを組みやすいのが特徴です。

●進路・入学手続きなど

Q6. 高校受験には何か影響はありますか。

A6. 小中一貫校・小中連携校いずれの場合も、学習指導要領に基づいて必要な内容を学びますので、制度として特別な有利・不利が生じるものではありません。

ただし、9年間を通して学習習慣や基礎学力の定着を図ることで「中学校段階での学びの質」を高め、結果として高校進学に向けた力を育てることが期待されています。

●保護者として知っておいていただきたいこと

Q7. 保護者として、一番知っておいた方がよいポイントは何ですか。

A7. 名称の違い以上に大切なのは、「お子さんの9年間のどのような考え方で育てようとしているのか」「そのために小・中がどんな連携や一貫した取組を行うのか」という点です。

小中一貫校、または小中連携校でやりたいことをイメージすることが大切です。

今治市としては、保護者の皆様のご意見を参考に、地域の実情や通学環境を踏まえながら、実現可能な形を模索し、小中一貫校・小中連携校いずれの場合でも、「子どもにとっての学びやすさ・安心感」を最優先に考えて取り組んでいきます。